

令和 5 年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属久里浜特別支援学校	校長名	伊藤 僚幸
幼児・児童・生徒数（R6.3.1 現在）	52	学級数	18
2 教育目標等			
① 学校教育目標	<p>○子供一人一人の思いや個性を大切にし、障害特性等に応じた指導を通して、主体的に考え、判断し、表現する力と態度を育成する。</p> <p>目指す子供像：人との関わりを楽しむ子、自分なりに考え行動する子、自分の考えや思いを表現する子</p>		
② 学校経営方針	<p>○附属学校として果たすべき使命を遂行するため、教職員の協働体制を再構築し、保護者や関係者と連携を図りながら、子供一人一人を確かに育てる教育を追究する。</p> <p>(1) 筑波大学の教育・研究及び事業への貢献 (2) 先導的な教育・研究の展開と成果の発信 (3) 安心・安全で信頼される学校づくり (4) 役割の自覚と決まりの遵守 (5) 教職員の専門性の向上</p> <p>目指す教職員像：学校の使命を自覚し、同僚との協働によりその遂行を目指す教職員。幼児・児童の安全・安心を守る教職員。幼児・児童一人一人を理解し、寄り添うことができる教職員。専門性を高めるため研鑽を積もうとする教職員。保護者や関係者と十分にコミュニケーションを図り、信頼される教職員。公私を区別し、同僚とも節度ある態度で接する教職員。法令を遵守し、任された校務を、責任を持ってやり遂げる教職員。</p>		
③ 重点目標	<p>○教育課程の充実とカリキュラムの見直しを含めた授業づくりに取り組む。</p> <p>○安全対策マニュアルの見直しと訓練内容の充実を図る。</p> <p>○教育実践や研究成果を広く社会に発信し、自閉症教育の啓蒙に寄与する。</p> <p>○人事交流自治体との連携を深め計画的な運用を図る。</p> <p>○宿泊体験学習を実施し、児童の身辺自立向上に取り組む。</p> <p>○変形労働時間制に基づく勤務形態の実現を図る。</p> <p>○ハラスメント研修等を計画的に実施し、教職員の人権意識の向上を図る。</p>		
④ 前年度（令和 4 年度）の成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自閉症教育実践研究協議会（実践研）を開催した。リモートを活用して実施し、約 200 名の参加者があった。実践研では、研究の成果を発表するとともに、研究内容等をまとめた集録を刊行し関係諸機関に配布した。 ・教員個々の専門性向上を図るため、アセスメント研修やカード整理法を交えたミーティング研修を実施した。個別の指導計画の作成においては、教員間で情報を整理・共有し専門性の向上に役立てることができた。 ・コロナ禍において、感染拡大防止策を実施しながら教育活動を展開し、学校行事等概ね実施することができた。 ・中国仁愛特別支援学校と姉妹校協定を再締結するとともに、仁愛特別支援学校からの依頼を受け、本校の実践を発表した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導と自立活動の内容の充実とカリキュラムの検討。 ・正規採用者の拡充及び人事交流の継続的な実施。 ・定員未充足の解消に向けた、学級編制や入学選考の検討。 ・ホームページや学校紹介動画の作成を通じた啓蒙活動の強化。 		

3 重点目標達成についての総括的評価

人事交流を含めた教員異動の多さから、これまで培ってきた自閉症教育の専門性や指導方法等の継承に課題を抱えており、教員の中には自信を持って指導することが難しいと感じる者もいた。この実態を改善していくことを目的に、自閉症児に対する指導のポイントを整理しなおすこととした。また、教科等を合わせた指導における指導目標を、各教科別に整理しなおすことで、教育課程の見直しと充実を図ることにした。全学級において単元全体を見直すための授業公開及び授業研究会を行うなど、各教員は積極的に単元作成と、その改善に取り組んだ。年間を通し、筑波大学人間系や国立特別支援教育総合研究所研究員の指導・支援を仰いだことから、教員全体の専門性と指導力向上につながった。教育実践や研究成果については、本校が主催する「自閉症教育実践研究協議会」において発表するとともに、年度末には「実践研究収録」を刊行し、広く社会に発信することで、自閉症教育の啓蒙に寄与することができた。

安全対策マニュアルの見直しを行い、実態に見合った個所の改善を行った。各訓練（行方不明搜索訓練、地震津波避難訓練、引き渡し訓練、初期消火訓練、寄宿舎夜間避難訓練、寄宿舎火災訓練、不審者対応訓練）を計画的に実施するとともに、訓練等から得られた反省点を全教員で共有した。

令和5年度人事交流者数は、8自治体10名の教員であった。次年度以降も各自治体教育委員会と連携を強化し計画的な運用を図り交流者の資質向上に寄与したい。変形労働時間制については、令和5年度の時間調整に関する反省を踏まえ、令和6年度の労働時間制を改善していく。ハラスメント研修は、計画的に実施し教職員の人権意識の向上を図ることができた。

社会貢献や地域の連携等については、特別支援教育総合研究所の運営委員や外部評価委員、特別支援教育専門研修の講師などを担当した。また、筑波大学公開講座を2講座開設するなどして、自閉症教育の啓蒙や発展に寄与した。

4 令和6年度の学校課題

- ・教科等を合わせた指導における教科指導の位置づけの明確化、指導目標の適切な評価方法の検討と、それらを踏まえた教育課程の改善。
- ・正規採用者の拡充及び人事交流の継続的な実施。
- ・定員未充足の解消に向けた、学級編成や入学選考の検討。

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

3年をかけ、知的障害を伴う自閉症幼児児童のための教育課程を検討する。昨年度作成した、単元構想シートをブラッシュアップし、指導目標・指導内容を整理しながら、適切な評価のあり方について検討を行う。また、指導内容確認表を作成し、教科の目標・内容をおさえられているのかを確認できるようにする。また、作成した単元計画を基に、年間指導計画を見直し、教育課程の改善につなげていく。

専門性の維持・継承や安定した学校運営を行うため、正規採用者を計画的に拡充していく。また、人事交流においては、各自治体の教育委員会との連携を密にし継続的発展的に実施していく。

地域関連施設との行事開催や学校公開、交流及び交流学习の活性化などを含め、学校の存在や魅力を高めるとともに、それらの様子をホームページ等で発信していく。

6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

令和5年度自閉症教育実践研究協議会 実践研究集録

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

令和 5 年度

学校名	筑波大学附属久里浜特別支援学校
-----	-----------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-8	学習指導要領等の基準にのっとり、児童生徒の発達段階に即した指導に関する状況	発達段階を把握し、個別の指導計画作成の資料とするために、年度当初予定した対象児に対し、自閉症・発達障害児教育診断検査（PEP-3）を実施した。検査は、校務分掌に位置付けたアセスメント委員会構成員で行った。今後は、検査者養成を目的にした研修を充実させ、教員全体の専門性向上につなげたい。
1-2-1	学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	教育課程の編成や実施について、教職員の共通理解を図ることを目的に校内研修会を開催した。講師は、筑波大学人間系や国立特別支援総合研究所の研究者に依頼した。校内研修会は、教育課程や教育現場の喫緊の課題も含まれていたことから、充実したものとなった。今年度の教育実践や研修等で得られた知見は、本校が主催する「自閉症教育研究協議会」において発表した。
1-2-9	教育課程の編成・実施の管理の状況	教科等を合わせた指導における教科の位置づけや、指導の目標・内容の示し方を明確にすることを目指し、それぞれの学部でテーマを設定し教育課程の改善に努めた。また、授業時数の適正化に検討を行い改善を図った。
3-1-4	保護者や地域社会、関係機関等との連携協力の状況	PTA 活動の他、幼児児童の父親で構成された「おやじの会」から支援を受けるなど、良好な関係を継続できた。学校が所在する町内会で実施した防災訓練等にも参加した。特に、国立特別支援教育総合研究所との連携・協力は、学校行事への参加を含め多岐にわたった。
5-1-4	危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	予定している訓練（地震津波避難訓練、引き渡し訓練、初期消火訓練、寄宿舎夜間避難訓練、寄宿舎火災避難訓練、不審者対応訓練）を計画通り実施した。これまでの反省をもとに、地震津波火災対応マニュアル、不審者侵入時マニュアル等を修正した。
6-1-1	特別支援学校と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習の状況	横須賀市立明浜小学校児童と直接交流を実施した。互いの学校を訪問し合うなど、コロナ禍前の状況に戻った。筑波大学附属学校教育局が企画した「三浦海岸交流行事」に小学部 6 年生が参加し、筑波大学の各附属学校の児童生徒と交流することができた。
7-1-7	学校運営のための諸事務等の情報化の状況	学校運営の効率化や教職員や保護者への連絡事項の周知徹底を図るため、外部配信システムを活用した。また、様々な場面に Google Form 等を利用し、効率化を図った。トラブルの発生はなかったものの、インシデントを起こさないために教職員全体への注意喚起を継続する必要がある。
7-1-5	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス監督の状況	年度初めの職員会議と校内研修会において、労務に関する研修を行った。労務に関する法令や近年の状況を具体的に取り上げながら教職員全体で共通理解を図った。事務部と管理職でタイムカードを定期的にチェックし勤怠管理の徹底を図った。繁忙期の見直しを行うとともに、令和 6 年度の変形労働時間の調整に反映させた。

10-1-6	<p>情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況</p>	<p>子供の様子や学校行事が、より具体的に視聴できるよう定期的な情報発信に努めた。保護者や教育機関等の評判はすこぶるよく、好意的な感想や意見が寄せられた。</p>
14-1-5	<p>国際交流・国際貢献</p>	<p>中華人民共和国寧波市達敏学校との間で姉妹校協定を締結した。協定期間は5年間とした。両校の研究成果を共有するとともに、障害がある子どもたちの教育に尽力することを確認した。また、達敏学校児童生徒と、第19回アジア競技大会開催をテーマとした交流事業を実施した。競技名を答えるクイズ大会、バスケットボールシュート対決など、子供たちは、積極的に参加することができた。達敏学校教員とは、教育活動の紹介や情報交換をすることができた。アイダホ州立大学、モンゴル教育科学省、JICA等の研修視察を受け入れるなど、特別支援教育の発展に寄与した。</p>